

市町村情報

わたしたちのまち
トップインタビュー



市 悟 長
岡 代
静 河 市

西部のテクノポリス、東部の移動型テクノベルトに対して、中部にはテレビピア（未来型コミュニケーション都市）構想が持ちあがっている。21世紀の足音が聞こえ始めた今、県都の首長として、河合市長は市政の運営に静かな意欲を燃やしている。

最近、女性の生き方が多様化していると言われていますが、

何かに打ち込むといった生き方をする女性がめずらしくなくなってきましたね。男性の方は、依然として妻子を養わなければならない意識が強く、冒険が出来ない。（職員の登用なども）男だ、女だと区別して考える時代ではなくなってきたと感じているところです。

青少年非行や離婚の増加などは女性の自立志向への変化に、社会が対応しきれていないというような事情もあるのではないのでしょうか。

原因は単純ではないでしょうが、日本では父親の生活が仕事中心すぎ

て、家族全員で何かをするということが少ないですね。市でも、スポーツや、天体観測会など、親子でいっしょにできる行事を援助してゆきたいと思っています。いいアイデアがあったら教えて下さい。

ご家庭での市長さんは。

山登りや写真が私の趣味だったものですから、子ども達が小さかった頃にはよくいっしょに登りました。今は、子ども達も、それぞれ大学や高校で個性的な生活をしています。私が月に数回しか家で夕食がとれないという状態なので……。

◆ 父親として特に教育方針というほどのものはなかった、とのことでしたが、三人のお子様達は、進路や趣味の点で、大いに父親の影響を受けているらしいあたり、仲々よいお父さまでもいらつしやるようでした。



町 男 長
川 達
菊 葉
町 長

茶所菊川は、日本一の茶生産量を誇る牧の原台地の一郭を占め、高度成長の絶頂期、多くの若者が都会へと出てゆく中で、故郷の新たな建設に情熱を燃やし、三十四才の若さで

町長に就任した榛葉町長は、以来十年地方行政一筋に取り組んでいます。

町長さんとしてこれからの女性に望むことは。

女性だからというのではなく、一人の人間として、目標を持った生き方を考えてほしいですね。

たとえば、アジアの隣国の人達の生活にも目を向けることのできる広い視野を持ったリーダーを育てたいし、町づくりのテーブルにも積極的にについてほしいと期待しています。

菊川町は大学を誘致されたり、文化の充実へも積極的に取りくまれているようですが。

私は、「耕心（心を耕す）」を座右の銘にしていますが、これからは、自己の開発や文化への欲求を満たすことのできる町づくりが大切だと考えています。

ご家庭での町長さんは。

子ども達に対しては、今は放任主義ですが、中学生までは厳しくつけました。三人とも牛乳配達を通して、自立心や他人への思いやりを身につけてくれたことは、うれしく思っています。

◆ 戦争でお父様を亡くされ、一度親父と晩酌を試みたかった、とおっしゃる言葉からは、平和を大切にされる強い気持が伝わってきました。

国の動き

男女雇用平等法（仮称）
制定への動き

法制化の背景

日本政府は、昭和55年に、国連が主唱した『婦人に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約』に署名をしたが、国籍、教育、雇用の分野における男女の平等確保等について、国内法の整備が必要であるため、今日まで批准はしていない。このため『国連婦人の十年』最終年（昭和60年）までの批准に向けて、関連する法律の整備を急いでいる。

婦人少年問題審議会の審議が難航法案の検討を進めている同審議会の婦人労働部会は、労働側、使用者側、学識経験者の各三人ずつ計九名の委員から構成されているが、特に①保護と平等の考え方、②法律の強制力、の二点について、労使の意見がまっこうから対立し、答申に到っていない。

この他、各政党もそれぞれ法案を用意して国会の審議に備えている。

国民的な関心の喚起を

婦人労働が質量ともに大きく変化してきている現在、この法律に対する関心も徐々に高まりつつあるが、長年の日本の労働慣行に変更を迫り、各方面への影響も大きいと予想されることから、より広範で建設的な議論の盛り上がりが期待される。



連絡先

浜松市入野町9157の11
電話 〇五五(四七)一五三三

代表者 井ノ口 智子

緑のカーテンづくり

《浜松・入野くるみの会》

限りある資源を末長く引きついで使ってゆくには、先ず主婦が豊かさに慣れた生活を見直すことが第一と五十五年に会が発足した。

五、十人での一つの班を作り、班ごとのリーダーを中心に活動をしている。会員は全部で五百名を超える大世帯である。

中部電力の後援を得て「電気教室」を開き、電気について学んだり、節電アンケートや、ヘチマ、朝顔、つるむらさきで緑のカーテンづくりに取り組んだりして、会員の省エネ意識の啓発に務めている。また、隔月に行う空カン回収は、親子参加で、プレス機を使ってコンパクトに処理している。売り上げ金は、花の種を購入して老人クラブに贈ったり、新設の学校に「ふるさと森」をつくる運動の資金として活用されている。今後は、先人の残してくれた有形無形の文化遺産を引き継いでゆくため、各地に残る祭りやしなどなどを録音したり、郷土の歴史文化を学び冊子にまとめたりして、文字どおり、地域ぐるみの会に発展させてゆきたいと意欲を燃やしている。

良い社会は良い家庭から

《静岡・友の会》

創立昭和六年。全国「友の会」の組織化をうけて、雑誌「婦人の友」の読者が三十三名で発足。

まず自分の家庭を健全な家庭にしよう。家庭は社会の最も基本的な単位だから。その家庭が良くなれば社会は必ずよくなる、という信念で、共に学び、共に励みつつ活動の輪を広げている。

県下には、沼津、富士、静岡、浜松と四つの組織があるが、静岡友の会は現在会員数、二百十余名。七つの部会に別れ、羽仁もと子著作集の読書会や、衣食住にわたる各種研究会が活動を続け、また、毎年開いている「家事家計講習会」は会員以外にも有料で公開され好評を得ている。さらに、年二回の会員の手作り作品によるバザーは、会のモットーを世に問う機会でもある。「家庭は簡素に社会は豊富に」思想しつつ、生活しつつ、祈りつつ「近隣文化の範たれ」の理想を掲げ、隣人愛の精神で、施設へのボランティア活動も毎年の年間計画に組んでいる。

五十七年には、長年の念願であった鉄筋二階建の「友の家」が会員の自力で竣工した。活動の拠点が確立し、同時に、会結成五十周年を祝うことができたのは、今後の活動への

この上ない励みとなっている。



連絡先

静岡市長沼町丁目三の六

電話 〇五四(三八)八六四六

代表者 越智 雅子



まして

あなたへ——

グループ情報

はじめ

何かをはじめたい

女性の能力を活かす場を創る

《女性談話室しずおか》

にぎやかなおしゃべりをしながら、女性を取りまく様々な問題を、自分達の視点から学習し始めて三年になる。メンバーは二十代から四十代の主婦、十五名ほど。

ひとりではできないことを仲間といっしょに、女性の能力を活かす場を自分達の手で、本当に興味のあることを話し合う場に、主婦に役立つ情報を集めて仲間づくりを、等々の切なる思いから、月に1、2回の例会を開いている。

会の記録と会員のコミュニケーションを図る会報は、現在42号を数える。これとは別に、女性のためのミニコミ誌『パンの耳』を編集して、今春第四号が発行される。部数も二千部が増え、三号からは書店での販売を始めている。

主婦の再就職問題は、会としての一貫したテーマであり、子ども達に納得のゆく学習塾をとる目的で、現在学習塾「むぎ」を開いているが、今後は、企業側へジョブシェアリングを働きかけたり、有料ボランティアの開拓なども手がけたいとプランを練っているところである。

点訳ボランティア

《沼津・てんとう虫》

十年前から、点訳や点字講習会を続けている。会員は、二十代から六十代まで幅広く、二十二名の中に、三人の男性を含んでいる。

行政がカバーしている分野とは一味違う、スポーツや料理、人生相談など生活に密着した情報や文芸ものなどを訳し、豊富な内容を盛りこんだ『月刊てんとう虫』を発行し、目の不自由な人達にも生活を楽しんでもらおうと心がけている。

また、カレンダーや時刻表、カラオケ歌謡集などは、大好評を得て、続編も作成している。

ほかに、社会の盲人に対する理解を深めるための活動や、点訳者を養成する講習会を開くなど、地道な活動を献身的に続けている。

連絡先

裾野市宮沢375の50

電話 〇五九(三三)三三三三

代表 市川 淑子



学びの道場

《三島・主婦とおんな》

三島市が募集した「働く婦人の家自主講座」への参加を機に、五十四年に発足。毎週木曜日に定例会を開いている。

女の生き方、社会参加などを考える問題意識の高さは注目に値する。教育の問題、法律の中での妻の地位、憲法学習などと並行して、自分達の老後、年金などにも早くから取り組み、アンケート調査をしたり、冊子にまとめたりしている。

また、老人ホームへ手造りの人形劇で慰問したり、おむつや丹禪を贈るなどのボランティア活動は、弱者に対する気持が自然と行動に結びついただけと気負った所は少しもない。現在常時集まれるのは十人ぐらい、会の輪を広げてゆくのが今後の課題。

連絡先

三島市若松町4418の3

電話 〇五九(八六)〇一〇〇

代表者 四條 三子



連絡先 静岡市東鷹匠町29
電話 〇五五(四五)八二(四五)六三七
代表者 寺田 朝子





アメリカの女性と家族

鈴木 栄子 (カリフォルニア州ロサンゼルス在住)



いま、アメリカでヒットしている歌の一つに、ドナ・サマーの歌う、

「SHE WORKS HARD FOR

THE MONEY」という

曲があります。文字通り「彼女は、

お金のために一所懸命働く」とい

う内容の歌ですが、ロサンゼルス

に暮していますと、この歌が実感

として大変よくわかります。

そのあたりから、アメリカの女

性と家族について、お伝えしてみ

ようと思います。

三年前、何も分らないままに、

夫の転勤について、家族そろって

ロサンゼルスに移り住んだ私は、

生活の変化からようやく落ち着い

たところで、あたりを見廻して大

きなショックを受けました。それ

は、アメリカの女性達が、ありと

あらゆる職場に見受けられたこと

です。

パトカーの警察官、運転免許の

試験官、その他日本では考えられ

ないような職業にまで女性が進出

し、仕事をしています。

しかも、さらに驚いたことには、

それが、日本のように、結婚前の

若い女性が主流というのではなく、

若い人から年配の方まで、あらゆる

年齢層の女性が、職業を持って

第一線で働いていたのです。

でも、昼間、主婦が家にいて、主婦業だけに専念しているといった方は、なかなか見つかることができません。

このような、日米の女性の生活

や生き方の違いは、一つには子ども

の保育施設や、アダルトスクール

での職業教育の機会等、社会資本

の整備が進んでいるという事情

にもよりますが、見逃せないのは、

夫婦の間柄で、妻の夫への依存度

が日本とは異なるということです。

こうしたことから、女性が自立

しやすい環境にあることは確かです

が、私には、ロサンゼルスでは

お金がなくては何もできなく、

SHE WORKS HARD FOR

THE MONEYによって、家族が

成りたっているように思えてなりません。

そして、皮肉なことに、女性の

社会での目ざましい活躍は、少年

非行や離婚増加の原因の一つに

なり、家庭崩壊というアメリカ社

会のかかえる大きな社会問題の背

景となっているのも事実と言わね

ばならないのです。

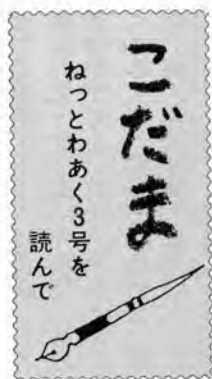
〔筆者は、静岡県商工部観光貿易課
ロサンゼルス駐在鈴木雅近氏夫人〕

海外のファミリーレジャー カナダのオートキャンプ



〔「キャンプ場の玄関。フロント棟
受付事務のほか、食料品なども販売している」〕

〔「テント・トレーラー。車で引っぱり移動する
ベッドや炊事設備があり、電気・水道もつなぐことができる」〕



電洋町 田村祐機 40代

女性の生活や意識の変化、社会構造の変化が、「家族関係」に与える影響は大きなものがあると思います。

しかし、家族主義の文化は、私達のしあわせづくりの原点であり、他にかげがえのないものと思っています。そして、夫婦の真剣に生きる姿が、子育てや老親の扶養につながるポイントだと確信しています。

今後とも適切な問題提起を期待しています。

浜松市 大塚秋夫 30代

限られた紙面にもかかわらず「家族」という大きなテーマで、特集を組まれた勇氣に拍手を送ります。

今回、内容からいっても、これから家庭をつくる人達や多くの男性にも読んでもらいたい内容でした。できれば『先輩から一言』とか『男性に一言』のような企画も、面白いのではないのでしょうか。

本

本の紹介

「21世紀は女性の時代」 日下公人著

『モノ』から『ソフト』へという時代の流れの中で、女性のあり余るエネルギーが日本経済を左右し始めている。モラル・バリアの打破が必要と説く。

祥伝社 六八〇円

「親子ふれあい学―親業の手引き―」近藤千恵著
増加を続ける青少年の問題行動のなか、心の通い合う親子関係を築くには、親として何が必要なのか。親業訓練の実践記録。

時の経済社 七二〇円

「子どもをあずける」

国立市公民館保育室に通う子どもは、年間四千人にのぼる。この実践を通して、母と子のあり方、子どもの側からみた託児のあり方などを問う。

未来社 一、二〇〇円

「もうひとつの働き方」

多様な生き方を模索し始めた女性達が職業とも、奉仕とも言い切れない、真に人間の生活の質を向上させるフロンティア・ジョブを始めた。その実例集。

海竜社 一、一〇〇円

「主婦論争を読む」Ⅰ・Ⅱ巻 上野千鶴子編

『主婦論争』という第二職業論で昭和30年に始まった主婦論争の主要な論文を網羅的に収めている。以来40年、この論争が問題にした『主婦的地位』は、今も、婦人問題解決の出発点である事には変わりはない。

勁草書房 各一、九〇〇円

沼津市 寺館晴江 40代

四十代を歩み出して二・三年。婦人のための学習資料や本などを、じっくり読む心のゆとりがやっとできました。「これからの家族を考える」は、女性として今何が大切か、自分をみなおす一つのいい機会となりました。

静岡市 杉山佳代子 40代

人間の歴史とともに家族の形態が変化し、その家族のあり方は「女性の生き方」と深くかかわっている、という特集の組み方がとてもよかったと思います。

ただ、今問題になっている家族の崩壊など、女性の側からの視点でとらえた記事がほしかったと思いました。

沼津市 玉井久江 40代

領ずける内容ですが、表現のしかたが少し難しいように感じました。今回友人から送ってもらって初めて読みましたが、もっと発行部数を増やして、大勢の人が読めるようにしてほしいと思います。



あどがきにかえつ

編集員座談会

富岡 応募のとき抱いた情報誌の印象とはかなり異った啓発誌で、えらく理論的なものでしたね。

渥美 そうね、啓発されるつもりで応募したのが、啓発する側だと聞いてびっくり、内心「どうしよう、どうしよう」結局ずい分勉強させられたし、目的には沿えたんではないかしらと思う。

板垣 私たちは勉強させて貰ったんだけど、筆力足らずで意が伝えられなかった……。それに、婦人の問題って、モヤモヤを吹き飛ばすような明快な答はなかなか出ないものなのね。

夏目 その辺は、民間から一般の婦人を採用した側では覚悟の上だ

と思うけれど、これまで啓発される側にいた私たち婦人の視点も、それぞれ出せた部分もあると思いたいですね。

白尾 たしかに啓発されたと思う。それまで女性問題はわりと一部の人間だけが騒いでいる、という感じがしていたのだけれど、このごろはマスコミなどの記事もよくわかるようになった。

渥美 一年がとて長くて、原稿用紙を眺めてはため息をついていたけれど、取材は楽しかった。今考えると、この一年は私にとって三年にも五年にも値する貴重な体験になったと思う。

富岡 そう、とても良い文章教室になった。それに何より取材先の方々と友達になれたし。編集員同志意気投合して、とても楽しか

った。

夏目 編集員の体験を通して私が強く感じたのは、女性の生き方は非常に多様性があるということだと思います。何もせずに人生を送ることができる反面、工夫次第では、もっともっと充実した生き方があるということを知ったのは収穫でした。

◇「婦人問題海外派遣事業」
「婦人問題海外派遣事業」各層の婦人の皆さんのご意見を反映させるため、県下数カ所で婦人問題を考える会を開きます。

板垣 母の時代と較べると確かに多様に生きられるようにはなつたけれど、それでも、女を縛る足かせが変らないのは不思議ね。

◇「地域活動への婦人の参加」をテーマに、団員二十名の派遣団が欧米へ研修に出かけます。

白尾 女性自身の側の意識の低さもあるのではないかしら。現状にそのまま流されてゆく傾向がある。たしかに取材は良かった。取材先のいろいろな方たちが、みんな生き生きと活動している姿は、すばらしいと思いました。

今後は、一年間勉強させて貰ったことをどのようにふくらませていくかが、私達の課題になるのではないかしらね。やはり地域に還元してゆくことが第一だと思うけれど、その方法はひとりひとり摸索してゆく、ということにしておきましょう。(名前だけの編集長として)一年間、お疲れさまでした。

お知らせ

この情報誌の「婦人編集員(五名)」を募集します。任期は、五十九年度一年間で、年間十回ぐらいの編集会議への出席と、取材が主な仕事です。

くわしくは、四月一日発行の「県民だより」、または、下記の婦人青少年課へお問い合わせ下さい。



表紙

静岡県浜松織維工業試験場デザイン縫製研究室作成。
同研究室では、浜松市を中心とする県西部地方に一大産地を形成する織維産業の発展の拠点として、デザインの開発研究、流行基調やファッションの動向調査などを行っている。

婦人のための情報誌「ねっとわあく」

第 4 号

昭和59年 2 月

編集・発行 静岡県生活環境部婦人青少年課

〒420 静岡市追手町 9 番 6 号

☎ <0542> 21-2137